

岡山大学大学院自然科学研究科附属光合成研究センターの設置について

1. 組織の概要

名称	岡山大学大学院自然科学研究科附属光合成研究センター
位置付	岡山大学大学院自然科学研究科附属センター
設置日	平成 25 年 4 月 1 日

2. 設置の必要性・目的等

光合成は藻類や植物が太陽の光エネルギーを利用して、水と二酸化炭素から有機物を合成する複雑な反応である。光合成によって作り出される酸素は地球上の好気的生物の生存に必要不可欠で、また、光合成によって固定されるエネルギーは地球上のエネルギー消費を支えている。現代社会が直面しているエネルギー問題、環境問題、食糧問題の解決も光合成研究と密接に関連している。本学は、光合成研究の長い歴史があり、藤茂 宏 博士、佐藤公行 博士などの世界的な光合成研究者を輩出し、現在も世界トップレベルの研究を続けている。そのうちの光化学系 II の構造解析に関する研究成果は、サイエンス誌による「2011 年における 10 の Breakthrough of the Year（画期的成果）」の一つに選ばれている。世界的にすぐれた研究成果をあげている本学の光合成研究をさらに発展させるため、関連研究者を集約して「光合成研究センター」を設置し、太陽光を利用する基盤研究の体系化を図るとともに、教育研究の拠点化を目指す。また、今後ますます必要とされる科学人材を組織的、集中的に育成することによって、社会への貢献を図る。

これは、本学を国際的に上位な研究機関とすること、特色ある学術領域の研究を推進し深化させること、既存の学問領域を融合した学際領域における新分野創成を目指すこと、国際社会の発展を重視する中期目標・中期計画に正しく合致するものである。

上記目標を実現するため、本センターでは、タンパク質生化学、結晶学、分子遺伝学、遺伝子工学、生物物理学、生理学、錯体化学及び材料工学等、太陽光エネルギーに関連した研究を融合し、推進する。

また、優秀な若手研究員を育成するため、経済的支援として、大学院生等を研究員及び RA に積極的に雇用する。国際的な共同研究を推進し、若手研究者の受入及び派遣、大学院生のインターンシップなどを推進する。

更に、学部教育に太陽光エネルギー関連の内容を導入し、学部学生から研究への関心を惹起することにより、次世代研究者を育成する。

※国内の関連分野の状況

国内で光合成関連研究者は多くの大学に散在しているが、センター組織はない。

3. 看板上掲式

日 時 平成 25 年 4 月 11 日 14 時～15 時

場 所 岡山大学自然研究科棟

主な参加者

森田 潔	岡山大学長
許 南浩	理事（企画・総務担当）・副学長
山本 進一	理事（研究担当）・副学長
門岡 裕一	理事（財務・施設担当）・副学長
妹尾 昌治	自然科学研究科長
沈 建仁	光合成研究センター長
山本 洋子	資源植物科学研究所長
古矢 修一	シニアリサーチ・アドミニストレーター
沼口 徹	シニアリサーチ・アドミニストレーター
佐藤 法仁	リサーチ・アドミニストレーター
宇根山 絵美	リサーチ・アドミニストレーター
野木 茂次	研究推進本部長
大原 晃洋	産学官連携本部長
村上 英夫	社会連携本部長
田中 秀樹	理学部長
高橋 純夫	前理学部長
谷口 秀夫	工学部長
武田 良正	研究交流部長
松原 俊雅	自然系研究科等事務部長



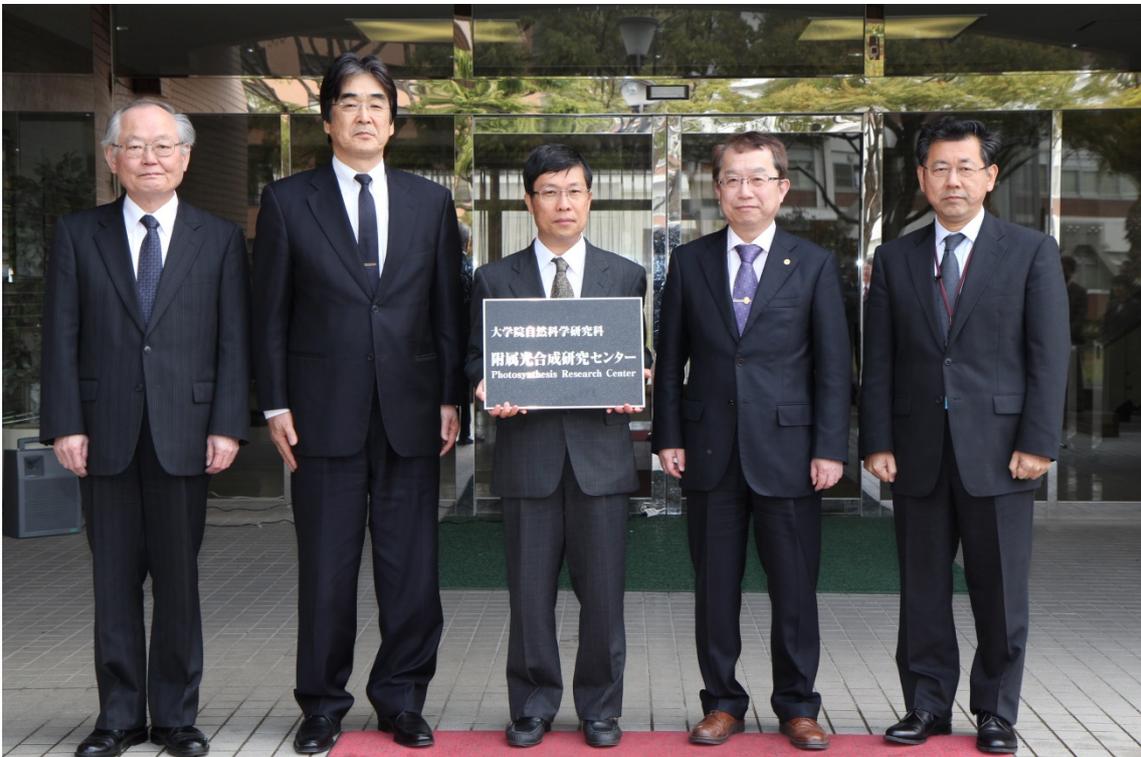
挨拶 森田潔 岡山大学長



挨拶 妹尾昌治 自然科学研究科長



挨拶 沈建仁 光合成研究センター長



役員と沈センター長

(左より：許南浩理事、森田潔学長、沈建仁センター長、山本進一理事、門岡裕一理事)



看板上掲



上掲式参加者集合写真